

入るよちつら雪の廊下ふり 夢襟  
 世をまじくおもむや言の葉の菴 育山  
 掃溜の雪やさゆ月まぢる 士先  
 大雪や松を縁を失を寸 与翠  
 時雨兄よけや用なき洲踏まで 雲山  
 志くもや松層焚てはまぬをむ 笠天  
 障つみ言や宿かゝあひの宿 高良  
 巨燈一もささぬ霞や室の雨 松居  
 むつま一さ門田の鶴やう時雨 酒井  
 こちかゝくもそ言のこもぬを 楚葉  
 反響のそれぢりくも時雨の形 三有  
 かつさけ楳の先や二志くれ 子寅  
 曇りてもはても山は志くれりり 栗崎  
 くり返りたふ人やむも時雨 懸橋  
 目の帯く松く言て時雨式 湘水  
 杖立る門はぬる一りきの言 桂次  
 計もなもいおときまぬ言式 抱芦女  
 赤る人も袖させて空や小萩時雨 龍子  
 雪の啼木居の手やも時雨 貞子  
 乙つそりと萩は定りぬ雪の門 伸女

挿よせし松葉をを一時雨 抱儀  
 灯てるれ隅く馬一雪の庭 鶯卿  
 山寺の障り先一志くれりり 桃磯  
 寄生を茶こ一ぬける虎式 礼宗  
 進つさ言見の人まかりるを 子將  
 突すとも杖まなけし雪の庭 兔仙  
 傘ハ振りすさる志くれりり 應声  
 無花葉樹の一葉落しては時雨 兔丸  
 的かけて打ぬうせや玉あくれ 天丁  
 眠よ志ぬ言及る夕く那 双奥  
 笠ぬけは志つりの言をあひるり 青陽  
 月落てひさす言を量指子 麦雨  
 古御客中  
 疎りく雪兄は藁の借者式 公石  
 雪よぢるちりり  
 戻りてみそれら南 仲丸

